

枚方東部

鳥獸保護区設定調査報告書

平成 17 年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

1. 調査の目的

この調査は、枚方市東部に鳥獣保護区を新設するため、野生鳥獣の生息状況をはじめ、地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域

枚方市枚方東部鳥獣保護区予定地。

3. 調査内容

実地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

4. 調査地の概要及び環境

枚方東部鳥獣保護区予定地は、京都府および奈良県と境を接する大阪府の東部、枚方市に位置する。枚方市の地形は淀川左岸から東に向かって標高 20m 以下の淀川低地地区、標高 30m の枚方台地、標高 50～100m の長尾丘陵、標高 100m 以上の山地地区と標高が上がっていく。枚方東部鳥獣保護区予定地の地形は、生駒山地から連続する山間部であり、枚方市の東端部を占めている。

自然林はほとんど残っておらず、森林植生はコナラ、アカマツ、アラカシなど二次林に生育する種で占められている。穂谷・尊延寺地区には里山環境がよく残されており、湿地、ため池の植物は比較的多い方であるといえる。大阪府レッドデータブックの絶滅危惧 I 類に指定されているオグラノフサモ、オグルマ、コバノトンボソウ、サンショウモ、デンジソウ、ヒメタヌキモなども確認されている。

鳥獣に関する保護区という視点からは、当該調査地は現在枚方市銃猟禁止区域に指定されている。隣接して南側には生駒山鳥獣保護区が有る。

現在の枚方東部周辺は山林、里山環境を利用して農林業や畜産業が営まれている他、北部、西部、南部に丘陵地形を生かしたゴルフ場が設けられている。

また、近年当該調査地の東側に里山の中を通る国道 307 号線バイパス道路が建設され、西側では第二京阪道路が建設されるなど、急速に環境が変化しつつある中で都市化が進む枚方市にあって貴重な自然環境を残している場所と言える。

5. 調査地域図

図1に、調査地域図を示す。

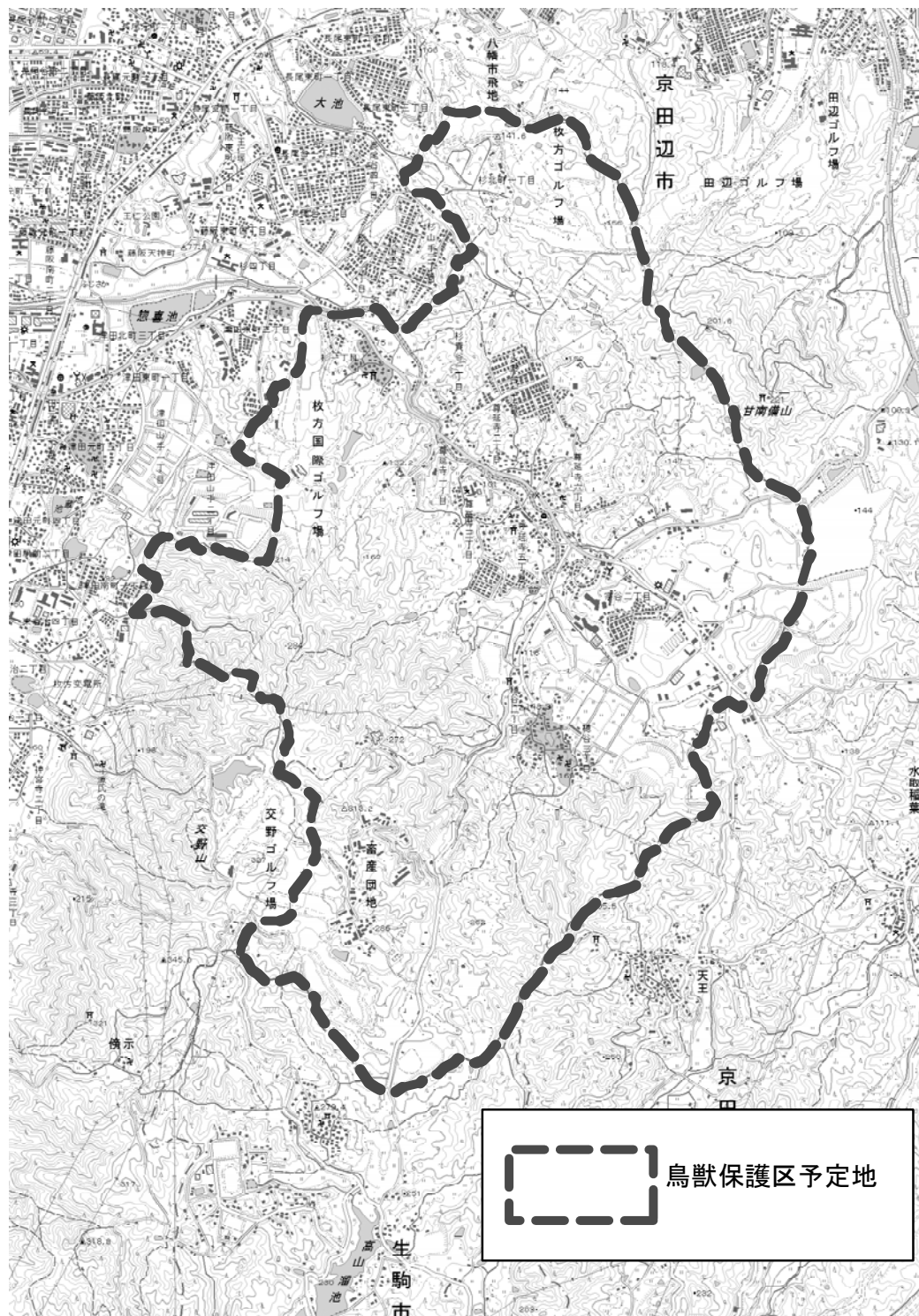


図1 調査地域図

6. 調査方法

以下に示す資料による文献調査によった。

文献 1：枚方いきもの調査会 「調査報告書」 2003 年度～2005 年度

文献 2：尊延寺の自然を守る会 「枚方市・尊延寺区における出現鳥類」及び
イラストマップ「梟の杜からのメッセージ-枚方の里山 尊延寺-

文献 3：日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録 2001』

7. 調査結果

7-1. 鳥類の確認

今回の調査により、枚方東部鳥獣保護区予定地で確認した鳥種一覧を表 1 に示す。分類は 2000 年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第 6 版』によった。この目録では、これまで野生種として取り扱われていたコジュケイを外来種として扱っており、今回の調査結果もこれを踏まえて、コジュケイをリストの最後に掲載した。

文献調査にて 97 種の野鳥を記録した。記録した鳥類の内訳は、留鳥 42 種、夏鳥 17 種、冬鳥 29 種、旅鳥 8 種、迷鳥 1 種である。

生息地位については 2002 年刊行の（財）日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録 2001』によった。表 2 及び図 2 に確認鳥種の生息地位割合を示す。

文献では個体数が記入されていないものが多く、表 1 の確認鳥種一覧には記録の有無のみを示した。

それぞれの文献における現地調査時期は 1994 年～2005 年であり、記録は概ね過去 10 年間のものである。

文献では、繁殖記録についての言及が少なく、巣や卵、ヒナの確認等具体的に繁殖確認に結びつく記述は見いだせなかった。繁殖期である春から夏にかけて生息する留鳥と夏鳥を合計すると 59 種となり、確認した鳥の内 6 割強については繁殖の可能性が有る。

今回の調査では、環境省レッドリスト記載種 5 種、大阪府レッドデータブック記載種 34 種の稀少鳥類を記録した。表 1 に環境省 RDL 及び大阪府 RDB として、その内容を示した。生態系上位種に位置づけられるタカ目、フクロウ目の猛禽類やスズメ目の小鳥類が多く確認されたのが大きな特徴である。又、大阪府レッドデータブックに記載される鳥の内、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている鳥は里山環境に依存するものが多いが、これらの鳥が 10 種確認されたのも当該調査地が里山環境を豊かに残している事を示すものであろう。

7-2. 獣類の確認

文献 2 でウサギ目ウサギ科ニホンノウサギ、ネコ目イヌ科タヌキ、ネコ目イヌ科キツネの 3 種の獣類が生息していることが確認された。また、種の同定には至らなかったが、モグラ目モグラ科、ネズミ目ネズミ科の獣類についても豊富に生息していることが窺われる。

表 1 確認鳥種一覧 1/3

No.	目	科	種名	生息地位	文献1			文献2	文献3	環境省 RDL	大阪府RDB	
					2003年	2004年	2005年					
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		○		○				
2	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	○	○		○	○		要注目	
3	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	留鳥				○	○			
4			アマサギ	夏鳥 (一部旅鳥)				○	○			
5			ダイサギ	留鳥					○			
6			コサギ	留鳥				○	○			
7			アオサギ	留鳥		○	○	○	○			
8	カモ	カモ	マガモ	冬鳥					○			
9			カルガモ	留鳥			○	○	○			
10			コガモ	冬鳥					○	○		
11	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥				○		NT	要注目	
12			ハチクマ	夏鳥			○			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
13			トビ	留鳥			○	○	○			
14			オオタカ	留鳥	○	○	○	○	○	VU	絶滅危惧Ⅱ類	
15			ツミ	留鳥	○				○	○	絶滅危惧Ⅱ類	
16			ハイタカ	冬鳥	○	○			○	○	NT	要注目
17			ノスリ	冬鳥	○	○			○	○		要注目
18				サシバ	夏鳥					○	○	準絶滅危惧
19			ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬鳥		○				準絶滅危惧	
20	キジ	キジ	キジ	留鳥		○		○	○			
21	ツル	クイナ	クイナ	冬鳥				○		絶滅危惧Ⅱ類		
22	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥				○	○		絶滅危惧Ⅱ類	
23			ケリ	留鳥	○	○		○	○		要注目	
24		シギ	クサシギ	冬鳥					○		準絶滅危惧	
25			ヤマシギ	冬鳥					○	○	準絶滅危惧	
26		タシギ	冬鳥						○	準絶滅危惧		
27	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○	○	○	○			
28			アオバト	留鳥		○						要注目
29	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	夏鳥				○	○		準絶滅危惧	
30			ホトギス	夏鳥	○		○	○	○		準絶滅危惧	
31	フクロウ	フクロウ	コノハズク	旅鳥				○	○		情報不足	
32			フクロウ	留鳥					○	○	絶滅危惧Ⅱ類	
33	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	夏鳥				○	○	絶滅危惧Ⅱ類		
34	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	旅鳥					○			
35			ヒメアマツバメ	留鳥						○		
36	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥				○	○	準絶滅危惧		
37	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	留鳥	○	○	○	○	○		準絶滅危惧	
38			アカゲラ	冬鳥			○	○	○		要注目	
39			コゲラ	留鳥	○	○	○	○	○			

環境省 RDL カテゴリー

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類

VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

表 1 確認鳥種一覧 2/3

No.	目	科	種名	生息地位	文献1			文献2	文献3	環境省 RDL	大阪府RDB	
					2003年	2004年	2005年					
40	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥				○				
41		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○	○	○	○			
42			コシアカツバメ	夏鳥				○	○			
43			イワツバメ	旅鳥 (一部夏鳥)				○	○			
44		セキレイ	キセキレイ	留鳥	○	○	○	○	○			
45			ハクセキレイ	留鳥	○	○		○	○			
46			セグロセキレイ	留鳥	○	○	○	○	○			
47			ビンズイ	冬鳥		○						
48		サンショウクイ	サンショウクイ	夏鳥			○	○		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
49		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○	○			
50		モズ	モズ	留鳥	○	○	○	○	○			
51		レンジャク	キレンジャク	冬鳥				○				
52			ヒレンジャク	冬鳥				○	○			
53		イワヒバリ	カヤクグリ	冬鳥				○	○			
54		ツグミ	ノゴマ	旅鳥				○	○			
55			ルリビタキ	冬鳥	○	○	○	○	○			
56			ジョウビタキ	冬鳥	○	○	○	○	○			
57			トラツグミ	冬鳥 (一部留鳥)					○	○		絶滅危惧Ⅱ類
58			クロツグミ	夏鳥	○							絶滅危惧Ⅱ類
59			アカハラ	旅鳥 (一部冬鳥)					○			
60			シロハラ	冬鳥	○	○	○	○	○			
61			ツグミ	冬鳥	○	○	○	○	○			
62		ウグイス	ヤブサメ	夏鳥	○	○	○	○	○			
63			ウグイス	留鳥	○	○	○	○	○			
64			オオヨシキリ	夏鳥					○			準絶滅危惧
65			メボソムシクイ	旅鳥 (一部夏鳥)					○			
66			エゾムシクイ	旅鳥	○	○	○					
67			センダイムシクイ	夏鳥		○	○	○	○			準絶滅危惧
68	ククイタダキ		冬鳥			○						
69	セッカ		留鳥		○				○			
70	ヒタキ	キビタキ	夏鳥	○	○		○	○		準絶滅危惧		
71		オオルリ	夏鳥	○	○	○	○	○		準絶滅危惧		
72		コサメビタキ	旅鳥 (一部夏鳥)			○		○			情報不足	
73	カササギヒタキ	サンコウチョウ	夏鳥				○			準絶滅危惧		
74	エナガ	エナガ	留鳥	○	○	○	○	○				
75	シジュウカラ	ヒガラ	留鳥			○						
76		ヤマガラ	留鳥	○	○	○	○	○				
77		シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○	○				
78	メジロ	メジロ	留鳥	○	○	○	○	○				

環境省 RDL カテゴリー

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類

VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

表 1 確認鳥種一覧 3/3

No.	目	科	種名	生息地位	文献1			文献2	文献3	環境省 RDL	大阪府RDB	
					2003年	2004年	2005年					
79	スズメ	ホオジロ	ホオジロ	留鳥	○	○	○	○	○			
80			カシラダカ	冬鳥	○		○	○	○			
81			ミヤマホオジロ	冬鳥	○	○		○	○			
82			アオジ	冬鳥	○	○	○	○	○			
83		アトリ	アトリ	冬鳥			○	○				
84			カワラヒワ	留鳥 (一部冬鳥)	○	○	○	○	○			
85			マヒワ	冬鳥				○	○			
86			ベニヒワ	迷鳥				○	○			
87			オオマシコ	冬鳥				○			準絶滅危惧	
88			ベニマシコ	冬鳥			○	○	○			
89			ウソ	冬鳥	○			○	○			
90			イカル	留鳥 (一部冬鳥)			○	○	○	○		
91			シメ	冬鳥				○	○			
92			ハタオリドリ	スズメ	留鳥	○	○	○	○	○		
93		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○			○			
94		カラス	カケス	留鳥			○	○	○			
95			ハシボソガラス	留鳥	○	○	○	○	○			
96			ハシブトガラス	留鳥	○	○	○	○	○			
97		キジ	キジ	コジュケイ	留鳥	○	○		○	○		
記録種数					41	48	42	81	76	5	34	

環境省 RDL カテゴリー

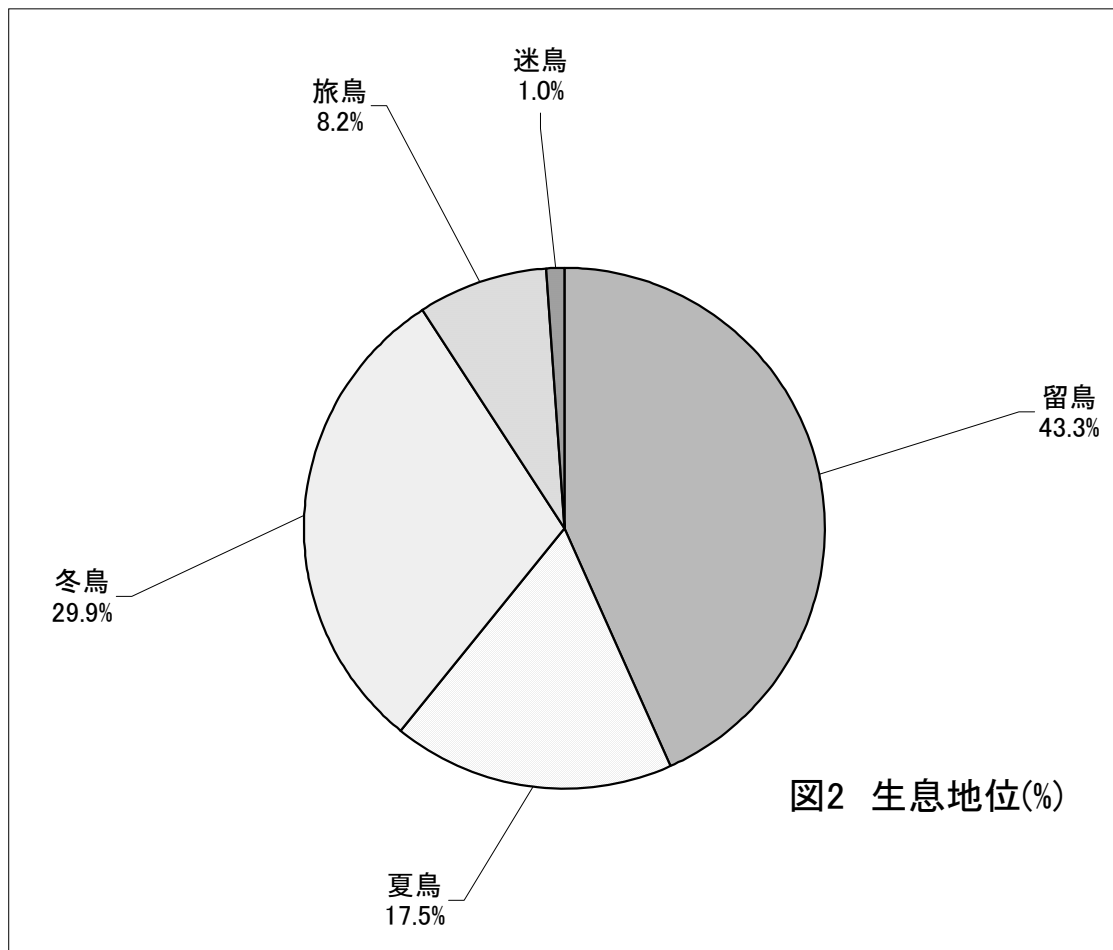
CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類

VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

表 2 生息地位

生息地位	種数(種)	割合
留鳥	42	43.3%
夏鳥	17	17.5%
冬鳥	29	29.9%
旅鳥	8	8.2%
迷鳥	1	1.0%
合計	97	100.0%



注:留鳥(一部冬鳥)、夏鳥(一部旅鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)など()付きの種についてはそれぞれ留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

8. まとめ

枚方東部鳥獣保護区予定地は、かつては薪炭林として利用されたコナラ、アカマツ林を主体とした山地に竹林、水田・農耕地が点在する。複雑に入り組んだ山地地形と灌漑用の小規模なため池によって形成される水辺環境が複合的に存在する典型的な里山環境である。このような環境を反映して、今回の調査では97種の野鳥とノウサギ、キツネ、タヌキなどの獣類3種が確認できた。また、種の同定には至らなかったが、モグラ科、ネズミ科の獣類についても生息が確認できた。

確認された野鳥は周辺が山地環境であることから小鳥類が大部分を占めた。調査結果では全出現種の58.8%に当たる57種をスズメ目の鳥が占めている。

又、全出現種の11.3%に当たる11種類が、タカ目、フクロウ目の猛禽類で占められているのも、彼等が餌とする小鳥類やモグラ、ネズミなど小動物が豊富であることを物語っている。

各地に点在するため池群は水鳥、水辺鳥の採餌・休息の場所としても利用されているようで、カイツブリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、ツル目、チドリ目、ブッポウソウ目の鳥も17種確認された。

生息地位から見ると、留鳥が最も多く42種で全体の43.3%、冬鳥がそれに続き29種29.9%、夏鳥が17種17.5%、旅鳥が8種8.2%、迷鳥1種1.0%という結果であった。確実な繁殖記録は示すことが出来なかったが、繁殖期に滞在する留鳥と夏鳥を合わせると59種60.8%となる。確認した6割以上の種について繁殖の可能性が有ると言える。

稀少な鳥の目安として環境省のレッドデータリスト及び大阪府のレッドデータブックに記載されている鳥も多く記録された。特に環境省RDLのカテゴリーでVU（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されているオオタカ、サンショウクイが記録されたことについては、彼等の繁殖が可能な環境であることから、特筆に値する。

また、環境省RDLのように全国的なレベルではあまり注目されないが、大阪府レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている鳥が10種も確認されたのは注目に値する。特にクイナ、フクロウ、ヨタカ、トラツグミなど、かつては人家付近で普通に生息していた鳥が、里山の減少と共に姿を消しているなかで、これらの鳥が確認された意義は大きい。

枚方市は近年急速に都市化が進み、身近な自然環境が大きく改変されてきた。そのような中であって枚方市東部の里山には貴重な植生や生態系が残されてきた。しかし、農村社会の近代化や農家の兼業化、耕作地の減少などにより、その必要性が薄れ利用率が低下するなど、里山の豊かな生態・植生が失われつつあ

る。また、国道 307 号バイパスや第二京阪道路の建設などにより、大規模に環境が変化しつつある。長らく人と共に育まれてきた枚方東部の里山は、今危機的な状況にあると言っても過言ではない。

このように枚方東部鳥獣保護区予定地には現在多くの鳥獣類が生息しており、府下の鳥獣類生息地として非常に重要な地域であると言える。環境教育の場として次の世代に里山の自然を受け継ぐためにも、鳥獣保護区化を進め、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることは重要であると考えます。

9. 観察した鳥類の写真

図 3 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

10. 参考文献

1. 大阪府 2000 年 大阪府における保護上重要な野生生物
-大阪府レッドデータブック-
2. 大阪府 2000 年 大阪府野生生物目録
3. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
4. 環境省 1998 年 哺乳類及び鳥類のレッドリストの見直しについて
5. 日本鳥学会 2000 年 日本鳥類目録 改訂第 6 版
6. 枚方市 「平成 17 年版 (2005 年版) ひらかたの環境
(環境白書・平成 16 年度年次報告書)

<http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/kankyau/kansoumu/17haku/index.htm>

11. 謝辞

本調査報告書の作成にあたり、尊延寺の自然を守る会代表稲森郁子、枚方いきもの調査会代表幹事石川新三郎両氏からデータの提供を頂いた。貴重なデータの使用を快諾いただき、心よりお礼申し上げます。



図3 枚方東部鳥獣保護区予定地で確認した野鳥